



企業や組織は機密情報の保護について、安易な方法をとるほどのゆとりはありません。ライフサイクルが終了したデータストレージ上のデータ消去は、企業や組織のデータ保護戦略において必要不可欠です。データ消去というと、一般的には、ドライブを物理的に破壊することを意味します。

この物理的な破壊は、あらゆる IT セキュリティポリシーにおいて有効ではありますが、常に最適な選択肢であるとは限りません。

従来のほとんどのドライブだと破壊によりデータの復元はできなくなりますが、SSD のような新しいデバイスだと、破壊されたドライブの断片にデータが残ってしまい、ドライブは使用できなくなる一方で、データ漏えいの可能性が残ります。

この様は背景も伴い、安全で認証されたデータ消去は機密データを適切に処理したい企業や組織にとって、一般的な選択肢となりました。データ消去の実施することは、物理的な破壊のセキュリティ要件をさらに強化します。また、データ消去はドライブ、スマートフォン、リムーバブルメディアなど多岐のデバイスからデータを除去するための手法としても活用できます。

しかし、データ消去は物理的な破壊に取って代わるほど安全なのでしょうか？

## 物理的な破壊の限界

ソフトウェアベースのデータ消去のセキュリティを証明するには、まず物理的な破壊の限界について知る必要があります。物理的な破壊はIT ハードウェアにおける、特にハードディスクドライブの歴史において、長くに渡って業界で強く支持されてきました。しかし、SSD など新しい種類のドライブに対しては、唯一の選択肢ではなく、またベストな選択肢でもありません。

SSD やその他の IT 資産は物理的に破壊されますが、データ密度がますます高くなるため、細断されたハードウェアの断片に無傷のチップ、そしてデータが残る可能性があります。この脆弱性に加えて、SSDなどをパソコンから取り出すための費用と時間が必要となり、ビジネス的にコストとなってしまうことがあります。

物理的な破壊は環境に対しても負担となります。環境に配慮した取り組みが注目される中、世界的には新しいテクノロジーへの二

ーズが急増しており、新しいデバイスのための天然資源の急速な消費と、埋め立て処理される膨大な使用済みデバイス(e-waste)に対する懸念が高まっています。

物理的な破壊に対するこれら2つの懸念を考慮し、企業や組織は安全なデータ保護に対する規制要件に準拠しつつ、収益性と持続可能な手段について深く理解する必要があります。

Blancoのソフトウェアによるデータ消去は、HPA(ポスト保護領域)やDCO(デバイス構成オーバーレイ)、そして不良セクタを含むドライブ全体にデータを上書きすることで安全性を確保します。またデータが復元不可能であることを検証し、ドライブが適切にサニタイズされたことを証明できる改ざん防止のドキュメントも提供します。セキュリティに敏感な組織においては、遵守すべきデータサニタイズ基準に従い、ライフサイクルが終了したデバイスに対してデータ消去を行い、機密性の高いデータに対しては、物理的な破壊との組み合わせで利用しています。

## データ消去の仕組みについて

ソフトウェアベースのデータ消去は、ストレージデバイス上のデータを上書きし、オリジナルのデータを0と1に置き換えます。規制要件が定める複数の上書き方式により、デバイスのすべてのセクタが上書きされます。上書き処理が完了すると、デバイス上のデータはフォレンジック調査でも復元不可能となりますが、デバイスの再利用が可能です。データ消去により、[International Data Sanitization Consortium](#) や [ガートナー](#) が定めるデータサニタイズの基準を実現できます。

今日のデータガバナンスやコンプライアンスなどの規制においては、データサニタイズの推奨手法にデータ消去が含まれています。DoD や NIST などが定める消去方式では、それぞれ異なる回数の上書きパスが推奨されていますが、どちらもソフトウェアベースの上書きが安全な処理であることを検証しています。

多くの企業や組織が、ソフトウェアベースのデータ消去により、IT 資産の処理プロセスに新たなセキュリティレイヤーを加えています。IT 資産のライフサイクルが終了した場合、物理的な破壊を実行する前に、データを復元できないよう消去します。つまり、物理破壊後の断片から残存データを復元できなくするのです。この新しいセキュリティレイヤーにより、企業や組織は、IT 資産の廃棄においても不正なデータアクセスから保護されているという安心感を持って、ビジネスを進めることができます。

ソフトウェアベースのデータ消去のベネフィットを享受できるのは、ライフサイクル終了時における IT 資産の処理だけではありません。企業や組織は稼働中の環境においても、データを復元できないようデータを消去することができます。規制要件への対応は、個人情報を活用する今日のビジネスにおいて重要です。EU一般データ保護規則(GDPR)や米国 HIPAA(医療保険の相互運用性と説明責任に関する法律)などの多くの法規制においては、保持期間が過ぎたデータは稼働環境においてでもデータ消去すべきであると規定されています。

Blanco は安全なソフトウェアベースのデータ消去のリーディングカンパニーです。Blanco は、稼働環境およびライフサイクルが終了した IT 資産をサニタイズするための一連のデータ消去ソリューションにより、世界各国の法規制、業界標準、ガイドラインに準拠可能です。

「データサニタイズとは、メモリデバイスに保存されているデータを永久かつ不可逆的に削除もしくは破壊し、それらを復元不可能にする厳格に定められたプロセスです。」

- [ガートナー](#)

データ消去が企業や組織にもたらすベネフィット: [無償のエンタープライズトライアル](#)により、お客様自身の環境においてデータ消去をお試しいただけます。